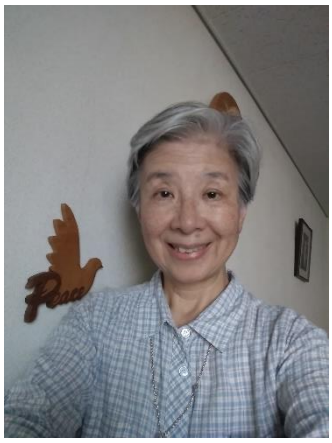
タリタクム日本 *Newsletter*
人身取引問題に取り組む部会
日本カトリック難民移住移動者委員会　発行責任者:松浦悟郎
135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10　日本カトリック会館
電話：03-5632-4441　FAX：03-5632-7920　E-mail: jcarm@cbcj.catholic.jp　https://www.jcarm.com/

第 7 号
2020 年
8 月発行

タリタクム　人身取引に終止符を！
TALITHA KUM
END HUMAN TRAFFICKING



「私たちは支えあって生きている」

タリタクム日本運営委員
Sr. 狩野　敦子（礼拝会）

未曾有の現象、Covid-19 に取り囲まれている日々が続いています。いつか解決すると希望を持ち続けても、やがてワクチンが開発され、使用されるまではどうにもならない現実を認識してきました。教皇フランシスコが仰ったように祈ること、私達が心の中で気にかけている人々のために祈ることで精一杯でした・・・。でも祈ることは神様と人々と連帯すること、危機を乗り越えようとすることに繋がりました。経済のひっ迫はタリタクムのコンテキストの中で見ると、女性がはけ口のない怒りの矛先となり、暴力の受け手となり、性産業で人権も保護されず更に厳しい状況へと追い込まれました。19 世紀スペインではコレラが蔓延し、対処する術もなく人が命を落としてゆくのを見るしかなかったことが起きていました。私たちは歴史として知っています。しかし今私たちが経験していることがこれなのだと身をもって実感しました。今は 21 世紀です。医学・科学の限界を目にしていますが、それでも治療が今現在無理でも、助け合おうという運動が世界の各地で始まりました。そのためにテレワークが画期的な役割を果たしました。嘗ての若者にとっては（？）ツイッター、FACEBOOK を使って人々が絆を深めていく様にも驚きつつ、学びました。

「わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。」（ローマ人への手紙 12 章 5 節参照）私は思います。キリストは私たちに自分のすべてを差し出された。日頃私たちが受ける聖体は（今はごミサもままなりませんが）ばらばらなものではなく、キリストにつながって一つの体となっている。遠くにいる人、出会えていないけど存在する人、私たちの祈りと働きを必要としている人、何よりもキリストが私たちを派遣しようとしているところにいる人。そのような女性たちと私たちはつながっていると。

大きなチャレンジを受け、時には力の限界を感じることもあるでしょう。でも一人ではない、そんな思いを強く持って、周辺にいる人々と生きることが進みますように。そして世界の変化に関心を持ちましょう。愛ゆえに自らを差し出したイエスが共におられます。

新型コロナの人身取引被害者への影響～ベトナム人技能実習生・留学生の状況から

山岸　素子
日本カトリック難民移住移動者委員会委員

新型コロナウイルスの感染拡大は、日本に住むすべての人々に影響を及ぼしていますが、とりわけ、日本社会の中で脆弱な立場に置かれた移住者や人身取引被害者に、深刻な打撃を与えています。日本カトリック難民・移住移動者委員会(JCaRM)では、これまでにも人身取引の温床と批判されてきた技能実習制度の下、あるいは留学生という隠れ蓑の下で労働搾取にさらされる技能実習生や留学生の状況を注視し、搾取からの逃れて、助けを求める被害者の支援を行ってきました。新型コロナ禍でさらに深刻な状況に追い込まれたベトナム人技能実習生や留学生に対する取り組みから見えてきたのは、日常的な搾取や暴力の実態とコロナ禍でさらに困窮する彼らの現実でした。

ベトナム人技能実習生・留学生からの SOS と「一杯の愛のお米プロジェクト」

2020 年 3 月下旬から、ベトナム人司祭やシスターら修道者のもとに、全国のベトナム人共同体のメンバーから「給料がもらえない」「お米が買えない」「食べ物がない」などの切迫した SOS の声が寄せられるようになりました。このような SOS に応えるため、ベトナム人の修道者らが呼びかけて 4 月 9 日に「一杯の愛のお米プロジェクト」と名付けられた食糧支援プロジェクトがスタートました。

周囲のベトナム人コミュニティや教会に呼びかけて食料物資や募金のお願いをし、集まった食料やお金でお米、ラーメンなどの主食、調味料、マスクなどの食料セットを全国の困窮しているベトナム人技能実習生・留学生らに送る活動を続け、6 月中旬にプロジェクトをいったん終了するまでに、計 5515 人への支援を実施しました。呼びかけ人の一人のニャー神父によれば、生活困窮の訴えが一番多かったのは技能実習生だと言います。彼らの多くは実習先での仕事がなくなると同時に、手取りが数万になるなど、休業手当が適正に支払われない状況で、日々の生活にも窮するようになっています。

▲発送作業のボランティアさんと

また留学生の状況も同様に深刻でした。彼らも実習生同様に、学費や渡航費等や手数料などの経費を借金して来日している場合が多く、日本で学びながら 28 時間以内のアルバイトで働き、借金返済や生活費を稼いでいるのが現実です。しかしコロナの影響により彼らが多く働く飲食店やホテルなどの仕事はほとんどなくなってしまい、収入がなくなると、貯えもないため、たちまち日々の食費や家賃などに窮することになってしまったのです。また特に影響が深刻なのは、来日して日の浅い留学生です。日本語の不自由さに加え、頼れる友人やコミュニティが周囲にないなどの状況下、孤立してプロジェクトの支援を求めてきたと言います。さらに技能実習生が過酷な労働環境から逃げて非正規滞在になってしまった場合、仕事もできず帰国もできない状況下で、お金が底をつき、近くの山からタケノコを掘ったり、川で魚を獲って食べているというような悲惨な訴えも届きました。

技能実習生ホットラインの実施

食料支援から見えてきた技能実習生の状況から、生活困窮のみならず、実習先からの解雇や実習先の倒産などの労働問題にも発展していくことが明らかでした。そのため、JCaRM では、技能実習生問題の専門団体のネットワークである「外国人技能実習生権利ネットワーク」との共催で、6 月 9 日および 7 月 4 日に、緊急コロナベトナム人技能実習生ホットラインを開設して、個別の相談に SNS で対応しました。

▲ベトナム人技能実習生ホットラインを開設

第 1 回目には全国各地のベトナム人から 44 件、第 2 回目には 54 件の相談が寄せられました。ホットラインの中で明らかになったのは、彼らが日常的に実習先でひどい扱いを受けているという現実です。建設などで働く実習生からは、重労働や危険な作業を強いられ、日本語ができないことで差別されたり、暴力や暴言を受けているという訴えも多く見られました。このような実習先ではもともと手取りの給与も少ないのですが、コロナの影響により手取り数万、あるいは給与がもらえないなど、最低限の休業保障もない実態が明らかになりました。また仕事がないことを理由に退職届にサインを強要されたり、帰国を迫られるなどのケースも少なくありません。

外国人がゆえに休業手当についての権利や相談先などが十分周知されていないという弱い立場に、実習先企業がつけ込んで、このような不当な扱いがされているのです。しかも、実習生たちは来日前に 100 万円ほどの借金を背負って来日している場合が多く、帰国を決断することはできないという事情のなか、先行きに大きな不安を抱えています。また 3 月などに実習を終えた技能実習生が帰国困難になっているという相談も多数寄せられました。借金などを抱えた立場の弱さにつけこまれ、日常的に搾取にさらされている技能実習生・留学生を少しでも救済するためのホットラインによる相談支援は、今後も継続していく予定です。

▲弁護士や労働組合関係者などの専門家と通訳がチームとなって、相談を受けつけました。

カトリック教会のなかには、コロナの影響をうけた外国人移住者のための食糧支援やお見舞い金の支給のほか、帰国困難となっている外国人のためのシェルターの提供などの活動を始めている教区もあります。タリタクム日本でも、引き続き、各地の取り組みと連携しながら、コロナ禍での外国人人身取引被害者に対する支援を継続していく予定です。

タリタクム　人身取引に終止符を！
TALITHA KUM
END HUMAN TRAFFICKING

タリタクム指導者養成コース

Sr.アビー・アベリーノ
（タリタクム日本運営委員/メリノール女子修道会）

私にとって、タリタクム指導者養成コースの第2回奨学生に選出されたことは大きな恵みです。このトレーニングコースは、ローマのアントニアヌム大聖堂とケニア・ナイロビのタンガザ大学カレッジの協力により、UISG（※１）が主催しています。このコースには、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパの大陸の 22 か国から 36 人が参加し、新型コロナ感染のピークだった今年 3 月に開始され、2021 年 3 月まで続きます。1 年間のトレーニングコースは、進行中のオンラインクラスと、2 回の実習プログラムで構成されています。しかし、最初のナイロビでの実習コースは、コロナ感染拡大が原因でキャンセルとなりました。主催者は今後、ローマで対面の実習プログラムを開催して、コースを修了できればと期待しています。

私たち参加者は、オンラインでのクラスや議論はもちろんのこと、文献購読、課題、レポート提出とプロジェクト形成にも積極的な参加を求められています。私は、夜間（日本時間）にオンラインのクラスに参加しています。コースは非常に充実していると思います。教授からだけでなく、人身取引の分野で働いている同僚からも、多くのことを学んでいます。私はこれまでのところで、人身取引問題にインパクトを与えるための統合的人間開発に関連する知識、手法、戦略、それらを適用する方法を学びました。また、人身取引問題の課題を学ぶためっめ、人に関する知識の習得、メカニズム、保護政策についても学びます。今、私たちに与えられている重要な役割として共にいる、新型コロナ感染拡大の影響を受けトラウマを抱えている最も脆弱な人びとの感情とレジリエンスの理論的側面についても学んでいます。この新しい現実により、私たちは自分の役割を再形成し、再考する必要があります。このコースは、精神的および感情的なケアの介入においても、私たちに道を示してくれます。さらにこのコースでは、ローカルネットワークと国際ネットワークの協働の中で、戦略的ネットワーキング実践やプロジェクト管理のスキルを向上させる機会が与えられます。これまでのところ、すべての参加者がコースを楽しんでおり、お互いを知り、感謝し合うようになっています。誰一人として取り残されていません。人身取引というこの凶悪な犯罪を終わらせるには、リーダーとして、互いに力を与える必要があります。

パンデミックによる制限のため、オンラインクラスに集中する時間が増え、会議やカウンセリングなどでのオンライン・インタラクションにこれまでにないほどテクノロジーとソーシャルメディアを使用しています。時々、インターネット接続は途上国の多くの同級生にとって、そして意外なことに、東京にいる私にとっても挑戦です。

※１　国際総長会議（主要な修道会の総長たちの連合体）

◆上段の一番左：Sr. ガブリエラ・ボタニ（国際タリタクムコーディネーター）

◆上段左から 4 番目：Sr. アビー・アベリノ　（タリタクムアジア・ネットワークコーディネーター）

タリタクムインターナショナル　最新レポート

Sr.アビー・アベリノ

（タリタクムアジア・ネットワークコーディネーター）

タリタクムアジアの地域・国別コーディネーターはこの間、2020 年から 2025 年のタリタクム活動の優先順位に準じて、ネットワーキングの強化と改善のため、オンラインでのミーティングを開催してきました。アジアのいくつかの国では今も都市封鎖が実施されているため、今年計画されていたすべてのタリタクムの集会活動は中止となっています。人身取引撲滅に関する多くのセミナーも、新型コロナウィルス感染拡大予防のためキャンセルとなっています。さらに、私たちは、多くの移住労働者たちが、新型コロナウィルスの感染拡大が原因で仕事を失い、困難な状況にあることや、特にフィリピンや韓国でオンラインによる性的搾取のケースが増加していることを見聞きしています。

タリタクムアジアの最近の動向は、今年 6 月 10 日から 16 日にインドネシア・ジョグジャカルタで開催予定だったタリタクムアジア会議がアジア各国に出されている渡航禁止勧告のためキャンセルとなった後、タリタクムアジア会議をどのように開催するのがよいか議論と対話を重ねています。私たちは今、2020 年 10 月にオンラインのリーダーシップトレーニング・オンラインセミナーの開催と一緒に、オンラインでのアジア会議を開催することを検討しています。開催可能になれば、次回オフラインの会議はタイで開催します。

このパンデミックの状況下で、私たちタリタクムネットワークもオンラインで会議を開催し、電話やインターネットでカウンセリングに対応し、ウェビナーや祈りでさえも、オンラインで実施しています。そんな中、東ティモールやミャンマー、カンボジア、インドネシア、スリランカ、パキスタンなど開発途上国では、様々な課題に直面しています。タリタクムアジアではこれらの国々に対し、コミュニケーションの円滑化をはかるための支援を実施していく予定です。

タリタクム地域ネットワークの拡大のため、3 か月に一度タリタクム地域会議を実施することに合意しました。東アジア地域の構成国は、日本と韓国と台湾です。

7 月 30 日は人身取引に反対する世界デーでしたが、この日、タリタクムが実施したソーシャルメディアでのキャンペーンに多くの宗教、信仰グループが参加しました。タリタクム日本でははじめて、オンラインでの祈りの会を開催し、人身取引の被害者のため、そして人身取引の撲滅のために心を合わせて祈りました。

タリタクムインターナショナルのコーディネーターであるシスターガブリエラ・ボッタニが、タリタクム日本が 9 月に開催する 3 回セミナーの、9 月 18 日の回に、スピーカーとして参加することを承諾してくださいました。

タイで開催された、人身取引問題に関する多宗教間セミナー

タリタクム　人身取引に終止符を！
TALITHA KUM
END HUMAN TRAFFICKING

人身取引に反対する世界デー「オンラインでともに祈るひと時」を開催しました。

7 月 30 日は、国連が定めた「人身取引に反対する世界デー」です。
月 30 日は、国連が定めた「人身取引に反対する世界デー」です。
教皇フランシスコも毎年、人身取引に関する現実を知ること、被害者のために祈ることを私たちに呼びかけています。
日本のカトリック教会で人身取引問題に取り組む、タリタクム日本では、
コロナ禍でオンラインミーティングが常態化した今年 7 月 30 日に、「オンラインでつながってともに祈るひと時」を企画、実施いたしました。

当日は 50 か所以上からのオンライン接続が確認されました。各所、個人で参加された方もいらっしゃいましたが、ほとんどが、修道院から複数名で参加してくださっていたようです。おそらく、150 人以上の方とともに、人身取引の被害者のために祈ることができたのでは、と思っております。
今年のコロナ禍は先の見通せない不安ばかりが強調されますが、多くの方とつながって祈る時間は、大きな希望を感じることができました。
ご参加いただいた方からは、下記のような声も届いております。

おはようございます。
昨日はお知らせ頂いた祈りに参加させていただきました。
こういう形では初めての取り組みで大変だったと思いますが、場を動かないで共に祈っていることを視覚で確認しながら連帯して祈れる体験で、感謝しました。
会の中では、特に国際会などは実践されていることとは思いますが、横のつながりを感じることができました。

タリタクム日本では、今後もこのような機会を企画し、より多くの方と祈りと連帯の時を分かち合いたいと思っています。
引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

事務局より

◆世界人身取引に反対する祈りと啓発の日（2/8）の取り組み

２月 8 日はスーダン出身の聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日で、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日（International Day of Prayer and Awareness against Human Trafficking」です。タリタクム日本では今年、教皇フランシスコも祈りと行動を呼びかけにこたえ、「ともに祈るひと時を持ちましょう」と各修道会に呼びかけ、「祈りの報告」を寄せていただくようお願いしていました。2 月 8 日以降、ベタニア修道女会、サレジアンシスターズ、聖心会札幌修道院のシスター方から、「ともに祈るひと時」の報告が届きました。それぞれの場でともに祈ることはもちろんのこと、バキータについての本やタリタクムの記事を皆で読んだり、You tube の映像を見て人身取引の歴史や実態について学び合った、と報告してくださいました。

サレジアンシスターズの学びの時間

ベタニア修道女会のシスター達の祈り

◆タリタクムオンラインセミナー（3 回連続）のお知らせ（9 月 11 日（金）、18 日（金）、25 日（金））

今年のタリタクムセミナーは、9 月に 3 回連続で、オンライン（ZOOM ウェビナー）でで開催いたします。「人身取引と新型コロナの影響～世界・日本の状況とこれからの教会」と題し、新型コロナに取り囲まれしまったような私たちの暮らしと信仰の「これから」について、新型コロナの影響を大きく受けている人身取引被害者の視点から、とともに考えてみたいと思います。当日は講演を中心に質疑応答を織り交ぜてのプログラムとなります。事前の参加登録が必要となりますので、J-CaRM のウェブページ（https://www.jcarm.com/2020/08/13/1388/）をご確認いただき、ご登録をよろしくお願いいたします。

募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者救済のためや、今後の活動のための募金をお願いしております。

郵便振替口座　00110-8-560351

加入者名　　日本カトリック難民移住移動者委員会

通信欄に必ず「タリタクム日本活動支援」の欄に☑を入れるか、
「タリタクム日本」と明記してください。

発行物のお知らせ

『国籍を越えた神の国をめざして 改訂版』日本語版、６カ国語版、『技能実習制度 Q&A』（A4 判二つ折）

詳しくは日本カトリック難民移住移動者委員会ホームページ（https://www.jcarm.com/）をご覧ください。
（ご希望の方は難民移住移動者委員会事務局までお申し込みください）

日本カトリック難民移住移動者委員会
電話：03-5632-4441　FAX：03-5632-7920　E-mail：jcarm@cbcj.catholic.jp